



学校だより

令和3年度 6月号
令和3年 6月1日
さいたま市立大谷口中学校

【学校教育目標】 かしこく 美しく たくましく

ほめ言葉は人生を左右するぐらいの力を持っている

校長 小林 正樹



3年生の生徒が似顔絵を描いてくれました。
校長のイラストとして今後使用します。

木々の緑も日一日と深くなり、気温の高い日や蒸し暑く感じる日も多くなってきました。季節が確実に夏に向かってのを感じます。早いもので、新学期がスタートして2ヶ月が経ち1学期の折り返しを迎えますが、生徒一人ひとりが生活のリズムを確立し、授業や部活動に励み、大谷口中学校全体が活気づいています。そのような中、6月5日からは学校総合体育大会が始まり、3年生にとっては、これまで練習してきた成果を発揮する最後の大会となります。生徒の皆さんは悔いが残らないよう全力で臨んでください。なお、保護者の皆様には、感染症防止の観点から、会場にての応援はできませんが、当日、お子様が自宅を出るとき、勇気と元気を与える温かな声掛けをしていただきますようよろしくお願いいたします。

さて、人は「ほめ言葉」を掛けなければ、成長しません。少なくとも教育においては、ほめることは最上の方法であると確信しています。中学校教師として、授業で生徒に知識や技能を教えるとき、消極的に授業を受けている生徒を叱るより、しっかりと取り組んでいる時に「よくできたね」とほめる方が、絶対的に教育効果が高いと考えています。生徒のいいところを見つけては、まずほめることから始めます。それから、少しだけ、もっとよくなるための「ほめ言葉」を掛けます。しかしながら、ほめるのに苦労する場面も多々あります。それでも、その生徒のどこかを必ずほめます。「アイデアがいいね」「返事がいいね」「できているね」と少しでもほめて認めることで、共感的な人間関係をつくり、生徒の自己存在感が育ち、そこから生徒たちはどんどん成長していきます。

私も中学時代、ほめられた思い出があります。3年生の時の担任は、クラスの生徒たちを一人前として認め、理科の授業は実験を重視した、少しユーモアのある先生でした。

ある時、私に対して次のような「ほめ言葉」を掛けてくれました。

「小林くんは、級友に対して分け隔てなく付き合うことができるね。すばらしいね。」

私はほめられたことを今でも覚えています。それ以来、私はそういう人間であろうと心がけてきたような気がします。自分に自信がなくコンプレックスを抱いていた中学生の時に、先生から、ほめられ、認めてもらった数々の経験が、教師になったきっかけとなりました。「ほめ言葉」は人生を左右するぐらいの力を持っています。

お世辞でなく、人をほめるというのは、相手を正しく見て、その人ならではの美点を見つけなければなりません。教職員一同、言語環境を整え、生徒たちをほめて認めて、自分に自信がもてるように応援していきます。

最後に、本校では、6月に「いじめ撲滅強化月間」として、いじめのない学校づくりを目指して重点的に取り組みます。放送による校長講話や生徒会、学級での話し合いを予定しています。

今後学校、家庭、地域の連携のもとで、大切な子どもたちを見守ってまいりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

ひとつの言葉でけんかして、ひとつの言葉で仲直り
ひとつの言葉で頭が下がり、ひとつの言葉で心が痛む
ひとつの言葉で楽しく笑い、ひとつの言葉で泣かされる
ひとつの言葉はそれぞれに、ひとつの心をもっている
きれいな言葉はきれいな心、優しい言葉は優しい心
ひとつの言葉を大切に、ひとつの言葉を美しく